

表 助産師教育のコア内容におけるミニマム・リクワイアメンツ項目と例示

(2006 年度総括)

7. 助産業務管理(項目数:6)

(No. -* はミニマム・リクワイアメンツ項目)

No	教育内容	例示
* 84	場の特性に応じた助産業務管理	1. 助産業務の行われる場所の特性を述べ、継続的な援助システムの観点から各場所における業務計画(業務内容と必要人員、勤務体制、援助方法等)を述べることができる。 2. 各場所で行われている業務計画に基づいて、業務内容の分析方法を述べることができる。 3. 各場所の業務管理に必要な具体的項目を述べることができる。 4. 業務管理の一環として、1名の妊産婦管理(妊娠から産後1ヶ月まで)のケア内容と必要ケア時間を推測できる。 <留意点> 場の特性からは、病産院・診療所、助産所の特性から各々の業務内容を挙げ、病産院・診療所では、これからの外来部門や産科棟のあり方を考えられる。具体的には院内助産システム(助産師外来の運営や、母子の安全性・快適性を主題にした分娩・産褥管理のあり方など)や、そのシステム内での助産師の役割、責務等などが展望できる。また、周産期における医療事故の実態から助産業務の安全とその改善点を整理できる。助産所では経営管理、産科嘱託医と連携医療機関制度、緊急搬送体制を理解し助産業務の安全対策を考えられる。
* 85	助産業務の評価と問題の明確化	1. 受け持ち対象(女性とその家族)ニーズのアセスメントを行い、ニーズに即したケアが適切で有効に行われたかを振り返り評価できる。 2. 助産ケアの目的を明確にしてケア計画を立案し、行ったケアの結果から残された問題を明示できる。
86	施設・組織の特性に応じた助産ケアの質の評価	
87	法的規定の理解と助産記録の記載と管理	
88	周産期のリスクマネージメント	
89	助産所開設の手順と方法	

注記: 診断と判断の使用法: 正常な場合は“診断”、異常の可能性がある場合は“判断”あるいは“判別”を使用